

競輪や競馬、スロットなどにのめり込んだ末の借金は約百八十万円に上つていた。「このままだと罪を犯すか、自殺するしかない……」。多重債務に陥った松山市の無職男性(51)。返済に疲れ果てた。「もう地道に返す気力もない」。破産の二文字が頭をよぎった。ギャンブルを始めたのは二十三、四歳のころ。当時は自衛官だった。知人に誘われて体験した競輪で、賭けた一万円が約六十倍に大勝ちしたときの快感が頭から離れず、毎週のように競輪場に通つた。

レースを見ているときだけは、仕事や生活での嫌なこと、つらいことを忘れられた。「金は稼げるし、有頂天だった」。しかし勝ちばかり続くわけもなく、気が付いたときには消費者金融から借金を重ねていた。

十年近く勤めた自衛隊を離れ、職を転々。「年を取つて仕事もない。あつたとしても、自分にとっては嫌

○○上

な仕事」。積もる不満の一 方で「ギャンブルで一発当てれば、楽ができる。借金も返せる」と思っていた。今年二月末に西条市での会社勤めを辞めた。今は松山市内の寺に身を寄せてい る。手元にあるのは、わずか数千円。現実の厳しさに、心は深く沈む。

気付けば多重の借金

- ✓ パチンコ・スロット依存症の自己診断チェックリスト
- パチンコ・スロットのことがいつも思い出され、頭から離れないことが多い。
 - パチンコ・スロットで興奮をして途中でやめられず、お金をつぎ込んでしまう。
 - パチンコ・スロットを過去に減らしたりやめようとしたが、うまくいかなかったことがある。
 - パチンコ・スロットを減らしたりやめようとするとイライラしたり、落ち着かなくなる。
 - パチンコ・スロットをするのは問題や不安から逃げ出す手段や不快感からの逃避のためだと思う。
 - パチンコ・スロットですってしまったときすぐに取り戻しに行ったり深追いをしてしまう。
 - パチンコ・スロットにのめり込んでいることを家族など親しい人に隠したりうそをついている。
 - パチンコ・スロットで遊ぶお金工面するために違法行為をしてしまったことがある。
 - パチンコ・スロットにのめり込んだことが原因で、仕事や、人間関係に重大な影響を与えたことがある。
 - パチンコ・スロットにのめり込んだための借金など経済的なことで他人に工面を依頼したことがある。

チェックが0~4個以下の人は
依存症の傾向は少ないと思われます

チェックが5~10個以上の人
依存症の傾向があるかもしれません

(東京都遊技業協同組合提供)

大勝ちの快感に酔う

ストレスがたまり、気晴らしをしようとパチンコに手を出してしまった。

一度始めると、止められなかつた。頭に浮かぶのはパチンコのことばかり。暇があれば、店に入り浸るようになつた。仮病で会社を市内に身を寄せていく。手元にあるのは、わずか三千円。現実の厳しさに、心は深く沈む。

無職男性、会社員男性の二人は困り果てた末、それ金融被害者の支援団体「松山たちばな会」(同市)を訪れた。そこで初めて「ギャンブル依存」といふ言葉を聞いた。病気だとう言葉を聞いた。病気だとうしても失敗は繰り返さない」。ギャンブルが原因でつづった借金二百万円を完済した松山市の会社員男性(51)は、そう書つた。

「絶対に同じ失敗は繰り

返さない」。ギャンブルがその後、約三年間は賭け事とは無縁の生活。しかし勤務先の倒産が「地獄」への扉を再び開いた。再就職したが、給料は大幅に減つた。見えなくなつた。視線を金融から金を借り、「自転車操業」を続けた結果、借金は三百万円超に。「パチンコ台と向き合うと周りがう」と思った。本人の知らぬ間に、症状が進行していく恐ろしさ。周囲の人も巻き込まれていぐ。会社員男性の妻は、夫の様子がおかしいことに気付きながらも、「家族に不満があるのかな」「どがめても逆ギレされるだけだから」と対応に苦悩。酒や睡眠薬を飲まないと眠れない日が続いたという。



節度を持ってギャンブルを楽しむ人がいる一方、賭け事に対してコントロールが効かず、生活を破壊させてしまう人がいる。なぜ、そこまでのめり込んでしまうのか。立ち直るためにどうすればいいのか。県内のギャンブル依存の実態を探る。

診断結果

(生活文化部・多和史人)

「現代人は、孤独で不安。会社や家庭などで問題から逃げるために繰り返しギャンブルをしていると、依存になりやすい」。早稲田大学工学部の加藤謙三教授(68)は、こう説明する。

競争が激化する現代。失敗は許されず、緊張度が高まる。ストレスがたまり、賭け事で気を紛らわそうとする人も多い。加藤教授は「ITの進歩など社会的なシステムの変化が早過ぎて、心が付いていけなくなっている」とみる。

誰もが気軽にギャンブルを楽しめる環境も、結果的に依存者を生む一因となっている。「最近はインターネットでも賭けられるからね」。県内のギャンブル愛好家は言う。ネット上で馬券、車券を購入する際は、年齢などの制限があるものの、パソコンや携帯電話があれば可能だ。

「レジャー白書2005」

おぼれる人々

「ギャンブル依存」県内事情

■ギャンブルが原因の金融トラブル相談者■

	男性	女性	計	訪問者数
2005年10月	7	2	9	71
11月	10	2	12	77
12月	8	0	8	42
2006年1月	7	3	10	71
2月	10	0	10	78
3月(15日現在)	9	1	10	29

(松山たちばなのは受け付け)

世界保健機関の国際疾病分類による「習慣および衝動の障害」に当てはまり、病的賭博と呼ばれている病気。加藤教授は「依存はモラルの問題ではなく、医学の問題。なぜのめり込むのかという根本に立ち返り、そこを治さなければいけない」と説明する。

誠訪東京理科大の篠原菊紀助教授(64)は「脳科学」からは、パチンコをする頻度と依存との関係について研究。当たりのとき、脳内で快感物質「β(ベータ)エンドルフィン」と「ドーパミン」の分泌がそれぞれ

強くなる。しかし、それが過度になると、脳内に「アセチルコリニン」と「ノルアドレナリン」の量が減少する。これが「依存」の原因となる。

「どう対処すればいいのか一般に知られていない」と指摘。加藤教授は「相談を受ける医師や弁護士らがギャンブル依存の正しい認識を持ちことで、状況は随分変わるはずだ」と訴える。

病と知らず繰り返す

○○中

によると、パチンコ、スロット、競馬などのギャンブルの参加者は計三千万人以上ある可能性がある」。日本では「ギャンブル依存は、本人の意思が弱いから」という認識が依然としている。

専門家の間で依存者の増加が危惧(きご)されている。県精神保健福祉センター(松山市)の橋史朗所長(55)は「薬物、アルコ

増し、それらの増え方は遊戯頻度が高いほど大きいと、この結果を発表した。薬物依存者の傾向とよく似ている。

医学的な対処が必要

て根強い。が、WHO(世界保健機関)の国際疾病分類による「習慣および衝動の障害」に当てはまり、病的賭博と呼ばれている病気。加藤教授は「依存はモラルの問題ではなく、医学の問題。なぜのめり込むのかという根本に立ち返り、そこを治さなければいけない」と説明する。

誠訪東京理科大の篠原菊紀助教授(64)は「脳科学」からは、パチンコをする頻度と依存との関係について研究。当たりのとき、脳内で快感物質「β(ベータ)エンドルフィン」と「ドーパミン」の分泌がそれ

■ギャンブル依存についての相談窓口■

県内	松山ギャンブル依存症の家族会	FAX089(956)0505	午後5時~9時
	松山たちばなのは	電話089(935)7278	午後1時~5時
	県精神保健福祉センター	電話089(921)3880	午前8時半~午後5時15分
県外	ホープヒル(横浜市)	電話045(364)5289	午前10時~午後7時
	リカバリーサポート	電話050(3541)6420	※4月19日受け付け開始
	ネットワーク(沖縄県西原町)		午前10時~午後4時

県内では、ギャンブル依存について相談、治療を行う専門機関が少ない。「どこに相談していいのか分からない」「ある心療内科に電話したら、『ギャンブル依存は取り扱っていない』と言われた」「回復の場があれば…」。依存者の家族らは嘆く。

専門家の側もどう対処すればいいのか、困惑しているというのが実情。ある保健所の職員は「(行政としての)対応マニュアルや勉強会があるわけではない。相談への応対は、保健所や職員によつても違うのではないか」と指摘する。県健康増進課によると、治療プログラムなどの体制も整っていない状況だ。

そんな中、依存者の家族らが立ち上がつた。「親しい人にも話せず、苦しんでいる。この気持ちは同じ立場の人でないと分かってもらえない」。昨年十一月、自助グループ「松山ギャンブル依存症の家族

存について相談、治療を行う専門機関が少ない。「どこに相談していいのか分からない」「ある心療内科に電話したら、『ギャンブル依存は取り扱っていない』と言われた」「回復の場があれば…」。依存者の家族らは嘆く。

専門家の側もどう対処すればいいのか、困惑しているというのが実情。ある保健所の職員は「(行政としての)対応マニュアルや勉強会があるわけではない。相談への応対は、保健所や職員によつても違うのではないか」と指摘する。県健康増進課によると、治療プログラムなどの体制も整っていない状況だ。

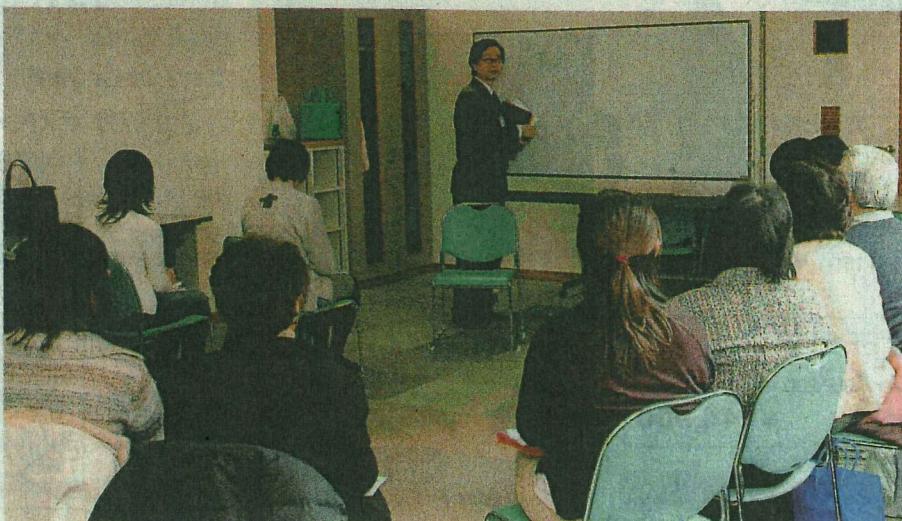
そんな中、依存者の家族らが立ち上がり、「親しい人にも話せず、苦しんでいる。この気持ちは同じ立場の人でないと分かってもらえない」。昨年十一月、自助グループ「松山ギャンブル依存症の家族

苦しさ・悩み語る場を

○○下

会」を結成し、悩み、苦しさを語り合うミーティングを設立する。無料相談を受け付け、現状把握に努めるほか、活動報告や啓発▽回復支援に必要なプログラムの開発などに取り組む。

家族ら自助団体結成



「ホープヒル」が開いたワークショップで、ギャンブル依存について学ぶ県内外の依存者の家族ら=2月、松山市

願う。

県内の取り組みはこれからだが、全国的には積極的に立ち直りを支援している民間団体がある。香川、広島、高知、徳島、愛媛などには依存者の自助組織「リーサポート・ネットワーク」(西村直之代表)を設立する。無料相談を受け付けて、現状把握に努めるほか、活動報告や啓発▽回復支援に必要なプログラムの開発などを実施する。

横浜市には回復施設「ワンデーポート」。いずれも依存者はミーティングを通じて同様の体験や悩みを仲間と分かち合い、ギャンブルを必要としない新しい生き方を身に付けていくという。依存者が立ち直るためには周囲の正しい理解も欠かせない。「ギャンブル依存ファミリーセンター・ホープヒル」(同市)は個別相談などを行い、家族をサポート。同センターの町田政明カウンセラー(53)は「家族は、精神的にも物理的にも当人と距離を置いた方がいい」と呼び掛ける。

「生きている限り、元に戻ってしまう可能性はある。しかしギャンブルに支配されていることを認めて、自分と向き合えば、再生活は可能なはず」。回復途上にある松山市の会社員男性(43)は、こう語る。依存から立ち直りたい。そう願いながらの闘いは

業協同組合連合会(東京都)・ぐらし

動き始めた。全日本遊技事

(生活文化部・多和史人)

は四月、相談機関「リカバリー・サポート・ネットワー

ク」(西村直之代表)を設立する。無料相談を受け付けて、現状把握に努めるほか、活動報告や啓発▽回復支援に必要なプログラムの開発などを実施する。